

令和5年度 第6回 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会 会議録 (概要)

日 時 令和6年3月29日(金) 午後2時00分から午後3時00分

場 所 市役所地下1階 団体研修室

出席者 三浦健会長、菊地謙委員、渡辺浩隆委員、石川由佳委員、篠田紫織委員、吉田鈴美委員、渡邊輝江委員、山寄幸子委員、櫻澤美智子委員、飯高優子委員、瀧口博史委員、會澤奈穂子委員、森井真理委員、今井崇徳委員(鎌ヶ谷市社会福祉課長)、館岡文委員(鎌ヶ谷市健康増進課主幹)

関係者 屋代利津子(習志野健康福祉センター地域福祉課広域専門指導員)、佐藤祐太(障がい者の働くを支えるチーム)、馬場武士(地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム)、岩崎健介(障がい者のつながりを支えるチーム)、竹内直人(障がい分野の情報を発信・啓発するチーム)、恩田信幸(精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム)、三星みなみ(医療的ケア児支援チーム)

欠席者 向井智之委員、竹之内純一委員、古市佳子委員、山本幸子委員、勝又和久委員

事務局 【障がい福祉課】星野里香課長、高橋奈帆子庶務係長、稲葉もも主任主事
【鎌ヶ谷市基幹相談支援センターえがお】渡辺恵美子所長、坂巻美佳、岩室優子

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 0名

添付資料

- ・式次第
- ・資料1 議題1 テーマ別チーム会議からの令和5年度活動報告資料
 - 1 「地域連携部会」部会員一覧
 - 2 地域連携部会 チーム参加者一覧
 - 3 令和5年度鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会年間スケジュール(全体・実績)
 - 4 テーマ別チーム会議(6チーム)検討整理(簡略版)
 - 5 各テーマ別チーム会議 資料
- ・資料2 鎌ヶ谷市 障がいを理由とする差別の解消の取り組みについて
「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」令和4年度習志野圏域相談活動報告
- ・第7期鎌ヶ谷市障がい福祉計画 第3期鎌ヶ谷市障がい児福祉計画

<本日の傍聴人及び会議の出席状況について>

事務局より、出席者数（15名）が会議開催の定足数である「委員の過半数の出席」を満たしていること及び傍聴者が0名であることを報告した。

課長挨拶

テーマ別チーム会議からの令和5年度活動報告

事務局より鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会（以下「協議会」という。）および資料1「議題1 テーマ別チーム会議からの令和5年度活動報告資料」について説明した。

会長

各チームリーダーより報告をお願いしたい。

(1) 障がい者の働くを支えるチーム

「鎌ヶ谷市障がい者就労系事業所ガイドブック」の内容を更新し、市内外の関係機関へ配布、市のホームページにも掲載した。併せて就労系事業所の連絡会を発足させた。

鎌ヶ谷市内企業の障がい者雇用に関する考え方を把握するため、企業向けアンケートを作成し、商工会工業部会の会議でアンケートの協力依頼を行った。6月発行の商工会工業部会報に、働くを支えるチームについて掲載され、企業向けアンケートと併せて、市内企業に郵送されることになった。

(2) 地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム

昨年度の「提言書」に記載した、通学バスに関するアンケート調査を2校の特別支援学校にお願いした。その結果を「報告書（内容：1 移動支援の拡充について 2 通学保障について 3 今後の課題について）」にまとめた。来年度は課題を検証し、市に「要望書」を提出したいと考えている。

(3) 障がい者のつながりを支えるチーム

「困った！どうする！？支援者向けシート」は、実際に困っている事例にこのシートがどのように使えるか、事例検討し、修正を重ね完成させた。市内メンタルクリニック、福祉サービス事業所等の117か所に配布する。令和6年度は、配布したシートを活用した効果を検証していきたい。

(4) 障がい分野の情報を発信・啓発するチーム

要支援者と福祉サービス事業所のマッチングをする機会として、2024年1月23日に「鎌ヶ谷市障害福祉サービス事業所等合同説明会～福福フェア～」を開催した。障がい者本人の集客が少なかったことやアンケート結果の内容を検討し、来年度の開催について考えていく。特にフェアの開催時期については早めて欲しいという意見があるので早めに検討していく。

(5) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム

令和4年度までに作成した「つながるシート」を、実際に市の各部署で使用し、そこで出た意見を基に改善を行った。最終的には、「つながるシート」（つながっている・つながっていない・退院して地域への3種類）、「状況チェックシート」、「情報提供書」を完成させた。令和6年度は、これらのシートを実際に活用してもらい、地域包括ケアシステムの

構築を目指していることから専門職以外の方も活用できるようにしたい。

(6) 医療的ケア児支援チーム

災害時の支援という視点で、AED分布マップのようなイメージの非常用電源マップを作りたいと考え、市内の医療機関にアンケートを実施した。その結果、かかりつけ医ではない市民に提供できる非常用電源はないという地域の実態を踏まえ「提言書」を作成した。「提言書」の内容は、1 中央地区における医療的ケア児の受け入れ可能な避難所の設置、2 家庭での蓄電池購入に対する助成、3 蓄電池を市で購入し、購入した蓄電池を希望家庭へ貸し出す制度の3点となっている。令和6年度は、医療的ケア児コーディネーターの設置や医療的ケア児連絡協議会の発足を検討していきたい。

会長

ただいまの説明について質疑があればお願いしたい。

特になし

会長

来年度も引き続きこのテーマ別チームの編成で継続することよろしいか。

異議なし

障がい者を理由とする差別解消の取組と相談事例について

事務局より、この協議会を「障害者差別解消支援地域協議会」と位置付けている旨を報告し、資料2「鎌ヶ谷市 障がい者を理由とする差別の解消の取り組みについて」を説明した。

広域専門指導員

資料2「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」令和4年度習志野圏域相談活動を報告した。障害のある人に対する理解を広げようパンフレットを基に、合理的配慮の提供が義務化されたことを説明した。

会長

ただいまの説明について質疑があればお願いしたい。

副会長

鎌ヶ谷市の相談件数が少ない。障がいのある方が、差別をされていても相談しなくなっているのではないか。この協議会の委員が障がい者差別に遭遇した際には、市役所や保健所に相談した方がよいと思う。法律や条例をより広く世間に知っていただくよう広報も必要である。

その他

事務局より「第7期鎌ヶ谷市障がい福祉計画 第3期鎌ヶ谷市障がい児福祉計画」について説明した。今後は市のホームページにも掲載する。

会長

他になければ以上で協議会を終了する。

閉会

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和6年8月19日

氏名 吉田 鈴美 _____

氏名 渡邊 輝江 _____